



「東京里帰りプロジェクト」を支援して下さったみなさまへ

2012/09/19 配信 vol.1 創刊号

◆◆被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ【東北こそだてレター】◆◆  
～3.11から1年半後の東北の子育ての今をお伝えします～



暑さ寒さも彼岸までといいますが、今年はまだしばらく暑さが続くようです。  
みなさまには、その後いかがお過ごしでしょうか。

先日お知らせ致しました

「東北こそだてプロジェクト」（一般社団法人ジェスペール主催）

<http://tohokumama.org/index.html>

に、多くのおみなさまのご支援をいただき、誠にありがとうございました。

このたびジェスペールでは、「被災地の今」をお伝えするため  
毎月メールマガジン【東北こそだてレター】を配信することに致しました。  
今回は～創刊号～をお送り致します。



”被災地から”の報告には、新聞にも載りました「大船渡こそだてシップ」の活動を取り上げています。一人でも多くのおみなさまにお読みいただき、被災地の現状をご理解いただけますと幸いです。

これからもみなさまの温かい思いを受けながら、支援活動を続けてまいります。  
引き続きのご支援を宜しくお願い致します。

一般社団法人ジェスペール

\*なお、メルマガ配信を希望されない方は、こちらより「解除」をお願い致します。

[http://tohokumama.org/mail/register\\_merumaga.html](http://tohokumama.org/mail/register_merumaga.html)



※このメールは、(社)ジェスペールの活動に応援・ご寄付をいただいている皆さまにお送りしております。

みなさま、こんにちは。一般社団法人ジェスペールです。  
9月も半ばを迎えまだ暑い日が続きますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

このたびジェスペールでは、【東北こそだてレター】を定期的にお届けすることになりました。今回はその創刊号として、代表宗祥子より現在の被災地の様子をお伝え致します。



## ◆ 目次

- ト まえがき
- ト ごあいさつ（ジェスペール代表・宗祥子）
- ト 支援実績（岩手・宮城・福島）
- ト 被災地から（ジェスペール代表・宗祥子）  
[http://tohokumama.org/activity\\_report.html](http://tohokumama.org/activity_report.html)
- ト 寄付者の声ご紹介  
<http://tohokumama.org/letter.html>
- ト プロジェクト応援のお願い  
<http://tohokumama.org/donation.html>
- ト 編集後記





◆ ごあいさつ (一般社団法人ジェスペール代表・宗祥子)



一般社団法人ジェスペール代表、松が丘助産院・院長の宗祥子です。  
このたびは皆様より多大なご支援をいただき深く感謝申し上げます。

私ども一般社団法人ジェスペールは、被災地で子育てをする母子を支援するために『東北こそだてプロジェクト』を立ち上げました。

このプロジェクトは昨年『東京里帰りプロジェクト』で支援をしていた、被災地域及び避難地域で子育てをするお母さん達を、引き続き支援する為に立ち上げられたものです。

支援の対象は、被災3県、主に福島県で放射能の被害に不安を抱えているお母さん達、また津波に襲われた沿岸部の困難な状況で子育てをしているお母さん達です。支援の地域が非常に広範囲に渡るため、ジェスペールがまとめ役となって活動しています。



\*\*\*\*\*

震災から1年半経ちますが、お母さん達の放射能への不安はまだ続いています。

津波に襲われた東北沿岸部の爪痕は非常に大きく、ここで子育てをするお母さん達もまだ困難な状況に置かれています。親しい人が亡くなったり家が流されたりした方が多く、安心して子育てできる状況ではありません。

子ども用品を購入できる店舗がなく、何時間もかけて買い物に出ないといけない地域もあります。そして非常に不便な場所に建てられた仮設住宅で生活をしている母子もいるのです。

こういった状況の中で子育てをしているお母さん達に対して、助産師たちは相談にのったり訪問をしたり、また産後すぐの方には産後ケア施設で受け入れ、暖かく見守ったりする活動を続けています。



詳しくはホームページでご報告していますので、是非ご覧になってください。  
<http://tohokumama.org/>

\*\*\*\*\*

「東京里帰りプロジェクト」の主体であった東京都助産師会は、プロジェクトを終了し本来の活動に戻っています。しかし被災3県の母子支援活動には、横断的なつながりが必要です。

そのために私たちは各地の助産師を繋ぎ、継続支援していくことが必要であると考えます。一般社団法人ジェスペールは、「東京里帰りプロジェクト」で活動した助産師及び事務局が主体となって活動を続けています。

私たちの活動は皆様からの温かいご支援で成り立っています。  
多くの皆様に支えられて、困難な中で子育てをしている被災地のお母さんや子ども達を助けることができます。

子育て中のお母さん達が集うママサロンや助産師達が問題を抱えるお宅に訪問する事で、お母さん達に笑顔が戻ってきています。

今後とも皆様方のご支援をお願いするとともに、多くの方々に被災地の状況を知って頂けるよう、『東北こそだてレター』をお届けいたします。



◆ 支援実績 (2012/8/31 現在)



<支援母子数>

7月： 463組／8月： 389組 【合計 852組】

<活動場所>

岩手（大船渡・陸前高田・釜石・大槌・遠野）  
宮城（石巻、気仙沼、亘理、名取）  
福島（いわき、相馬）

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビ体操/  
ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問



◆ 被災地から （ジェスペール代表・宗祥子）



9月4日から6日にかけて、岩手県大船渡市、陸前高田市で行われているママサロン『こそだてシップ』を訪問してきましたので、その様子をお知らせいたします。

\*\*\*\*\*

9月4日のママサロンは、大船渡市のカメラホールで行われました。

大変広い和室でお子さん連れのお母さん達が、とてもゆったりと過ごしていらっやいました。広い量の部屋なので子ども達は自由に走り回ったりおもちゃで遊んだりすることができます。

助産師やボランティアの方々が来ているので、お母さんもひと時子どもと離れて、お友達と話をしたり、助産師に相談事を話したりすることができます。

開催時間は午前10時から午後3時まで。

お母さん達は好きな時に来て好きな時に帰ります。1日中いたいと思えば、ずっといる事もできます。お昼には軽食が出るので一食でもご飯を作らずにここでゆったりと過ごすことが出来るのです。



\*\*\*\*\*

一人のお母さんからお話を伺いました。

震災の翌月、昨年4月初めに産まれた方です。

地震と津波が来た時はお腹が大きい時期で、たまたま検診のために少し高台にある実家に来ていました。自宅は全壊で跡形もなくなりました。

高台の実家にいたためにお腹の赤ちゃんの命は助かりました。

ご主人も仕事に出かけていたので、自宅は津波で全て流されましたが、ご家族は亡くならないですんだそうです。

しばらく実家に同居していましたが、仮設住宅ができたために現在はそこに住んでいます。仮設住宅は板1枚で隣とつながっています。

不便な場所にあり、また子ども連れで行く場所も周りにはありません。

毎日狭い仮設住宅の中で子どもと向き合っていると、息がつまりそうになるそうです。



このお母さんは、ママサロンが始まってから毎回参加されています。  
「子ども連れで行く場所があるということが、本当に救いです」とおっしゃっていました。

サロンに来れば友達とも会えます。また子どものことを心配することなく、ちょっとゆっくりとした気分になることができます。  
「初めての子育てをする母親には、このような場所は本当に必要な場所です」と話して下さいました。

その一方で、2人目の子どもの事は全く考えていない、経済的に難しいし、この先生活がどうなるか分からない、今後の自分達の家族のあり方についてはまだまだ見通しが立たないのだと不安を隠せない様子でした。

\*\*\*\*\*

代表の伊藤玲子さんはこう話しています。

「このサロンに来ることができる方はまだ恵まれています。  
本当に困っている方は、あの不便な仮設住宅からここまで来ることができないのです。  
その方たちのために巡回訪問が必要です」と。

6月からはママサロンだけではなく、巡回訪問も始めています。



\*\*\*\*\*

『東北こそだてプロジェクト』では、沿岸部支援に対し、西友ウォルマートから助成金による支援を受けています。

今回の訪問では、西友の役員の方が同行されました。

このママサロンの現場を見て、  
「いかにこの場が子育て中のお母さんにとって必要な場所であるか実感した」と述べていらっしゃいました。

\*\*\*\*\*

被災地では、行政の中で働く保健師や助産師も津波で亡くなっています。  
地元の成人健診など妊産婦以外の仕事も任せられ、この活動に参加できる助産師は限られています。

このような中では、現地の助産師達が、不便な仮設住宅に訪問する余裕はなかなかありません。  
そのため現在の巡回訪問では岩手内陸部や東京から助産師達が交代で訪れ活動の手伝いをしています。

東京からは非常に遠い場所です。  
新幹線で一関まで行き、バスか車で山越えをして大船渡市や陸前高田市までやっとどり着きます。

車で走らせて2時間半。バスで行くと3時間かかります。  
新幹線で東京から一ノ関まで行くのと同じ時間かかりますので、半日かけて行くことになります。

花巻など内陸部から来る助産師も、同様に山越えのため片道2時間以上も車を走らせてやってきます。広くて山の多い岩手では、内陸部から沿岸部で支援活動をするのにも、一日がかりです。



\*\*\*\*\*

ジェスペールでは、サロン活動や巡回訪問活動の資金援助・物資援助の他に、東京から派遣する助産師の手配もしています。

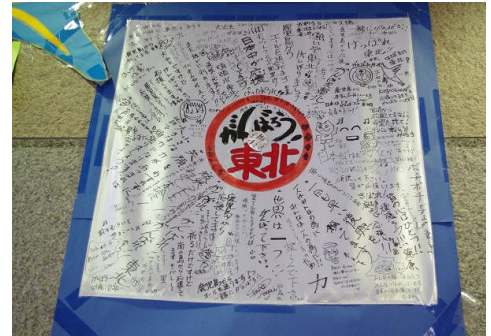
現地でのサロン活動、東京や内陸部の助産師達が行う巡回訪問活動は、今後1年以上続ける予定ですが、そのための費用が継続的に必要です。

皆様方の温かいお気持ちでこの活動を継続させていけるよう、お力を貸していただければ幸いです。

#### ◆ 寄付者の声

妊娠中に被災し、今は関東に住んでいる友人からこちらの事を聞きました。彼女は無事に生み育てていますが、知らない街での子育ては大変そうです。ましてや、被災地での子育ての困難さは想像できません。遠くから応援しています。(北海道)

8月27日の新聞記事を読みました。同じく子育て中の母親です。不自由のない生活をしていても、子育てはキツイです。仮設住宅で過ごされているお母さんの心労を思うと、他人事とは思えませんでした。少額ですが、お母さんと赤ちゃんの為に送ります。(鹿児島県)



私も五月に出産しました。出産後、おっぱいトラブルで気分が落ちることも多くあり日々格闘中です。新聞を読み、同じ子を持つ母親として、どんなに助産師さんが相談に乗ってくれたら心強いかと思い、心ばかりで恐縮してしまっていますが、ほんの少しでも役に立てたらあり難い思いです。(埼玉県)

8月27日の読売新聞の記事を見て、この活動を知りました。ただでさえ大変な子育て、被災地ではなおのことと思います。私も産後うつを患い、今も治療中です。被災地では、病気とわからずに苦しんでいる母親が大勢いるのではないかと思います。私は今働くことができないため、小額の寄付しかできませんが、一組でも多くの母子が救われることを願っています。(神奈川県)

娘はおりませんが、できる限りの支援をしたいと思っています。(埼玉県)

最近孫が2人生まれ、娘たちが乳腺炎でつらい思いをしていました。被災地のママたちがマッサージを受けたり、助産師さんに相談されて少しでも楽になればと思っています。いろいろご苦労もあるかと思いますが、活動を応援しています。頑張ってください。(富山県)

#### ◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、

ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation.html>

引き続きのご支援をよろしくお願い致します。



---

## ◆ 編集後記

---

事務局の打合せを終え、主要な記事の原稿をまとめようとした矢先、助産院を経営している宗は、お産の波に襲われました。

立て続けに5人の妊婦さんが入院、無事出産という徹夜続きの中、他のメンバーに負担を掛けながら、なんとか記事を書きました。

内容を割り振る人、実績をカウントする人、記事をまとめてくれる人、多くの協力があってこの【東北こそだてレター】が出来上がりました。

次回から“被災地から”はプロのライターさんをお願いしています。  
お楽しみに。 (宗)

---

## ◆「東北こそだてプロジェクト」メールレター◆

---

発行者： 一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ： <http://tohokumama.org/>

お問い合わせ先： <http://tohokumama.org/mail/mail.html>

Twitter: <https://twitter.com/tohokumama>

Facebook: <http://www.facebook.com/tohokumama>

解除： [http://tohokumama.org/mail/register\\_merumaga.html](http://tohokumama.org/mail/register_merumaga.html)

◆本メールレターの著作権は発行者・執筆者に帰属しておりますが、情報を広めるために、とご判断いただいた場合は、出典先を明らかにした上で許可なくご自由に転送、転載、回覧していただいて構いません。

Copyright (c) 2012 Jespere, All rights reserved

